



2023 ▶ 2024

この地で、
1年後の
わたしを探す。



Access Map



- つくばエクスプレスにて秋葉原駅からつくば駅まで最速45分。
- 路線バスにてつくばセンターから大学公園まで約15分。

Campus Map



問い合わせ先

総合選抜に関すること



総合学域群に関すること



発行 筑波大学 総合学域群

住所 茨城県つくば市天王台1-1-1

発行日 2023年4月7日

URL <https://scs.tsukuba.ac.jp>

IMAGINE
THE
FUTURE.

総合学域群へ ようこそ



総合学域群長
中山 弘

「都市計画を学びたい」としたら、どの学類・専門学群を選べば良いと思いますか?効率の良いインフラを構築する技術は工学の知識が不可欠ですが、そこに住む人々のライフバランスを豊かにするためには経済や政治の知識も必要となるかもしれません。魅力的な都市づくりにはデザインの素養も必要になるでしょう。さらに、自然との共生を考えた都市であれば、自然環境や気候変動に関する知識も必要になってくるでしょう。

このように、都市計画という一見シンプルにみえる問題意識を具体的に考えてみても、様々なアプローチが浮かんできます。大学で専門的に学問を学ぶうえで大切なことは、できるだけ早い時期に、いろいろな学問的なアプローチに接しながら自分の興味が持てる、自分にふさわしいアプローチを見つけることです。

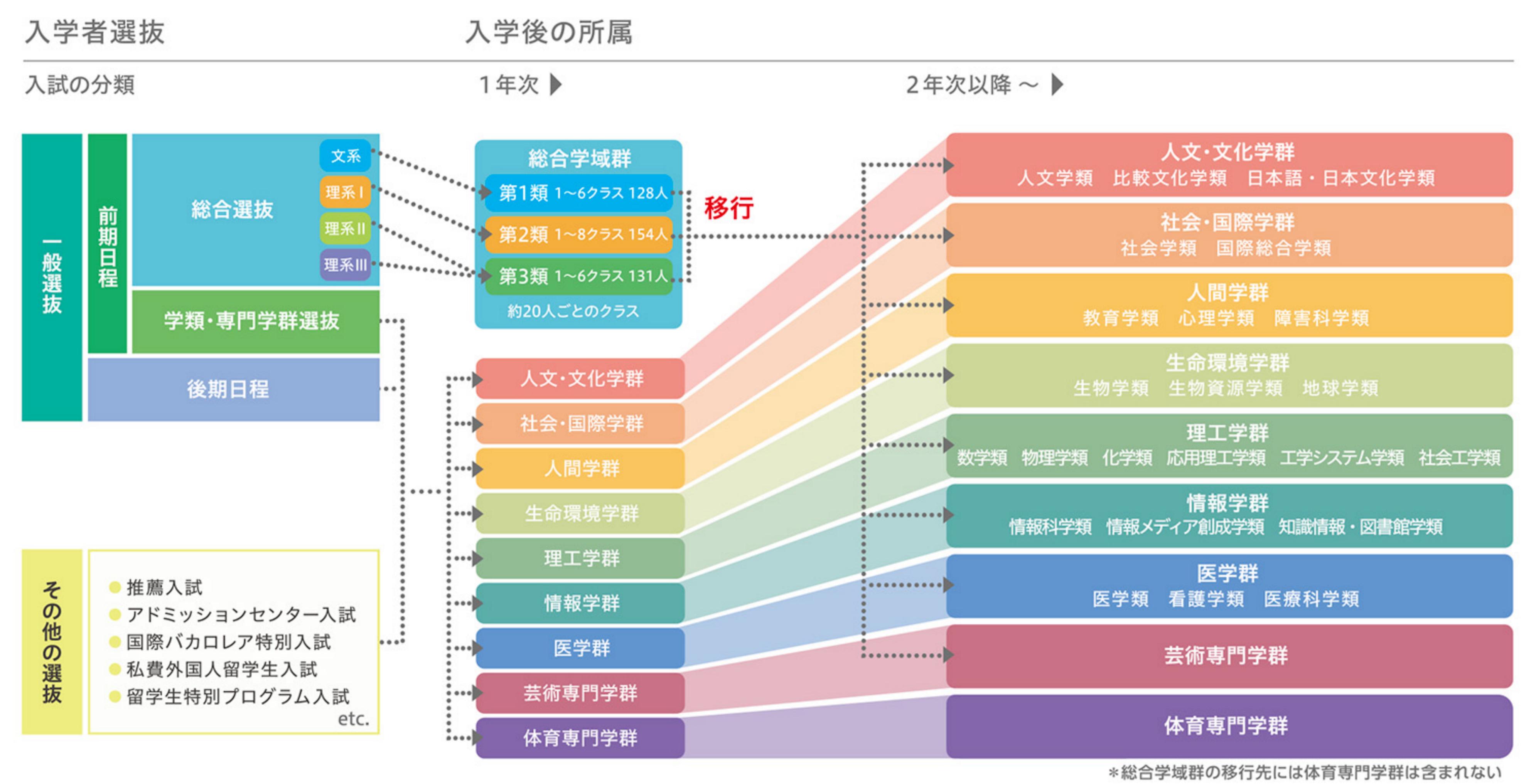
総合学域群は、総合選抜で入学した学生が原則として1年間だけ在籍し、次の年にはそれぞれ希望の学類・専門学群に移行する1年生だけで成り立つ、学内で唯一のチャレンジングな組織です。この総合学域群での「学び」の最大の特徴と魅力は、1年間かけて可能な限り幅広い様々な学問的アプローチを学修・体験しながら、固定観念に縛られない知的柔軟性と創造性を養うことができるということです。総合学域群での1年間とは、入学が決まって「ほっ」としてしまうのではなく、自分の将来を見据え、「自分は一体何をしに大学に入ってきたのか」、「自分の本当にやりたいことは何なのか」などを絶えず自分自身に問いかけ、また友達同士で語り合う「学びのプロセス」そのものです。「1年後のわたしを探す」学びの場、それが総合学域群といえるでしょう。

私たち総合学域群のスタッフは、皆さんの将来を見据えた学びのプロセスを充実したものとするために、全力を挙げて支援したいと考えています。これまでの筑波大学の学類・専門学群の学修システムとは少し異なる、チャレンジングな総合学域群の門戸を叩き、1年間の限られた「学び」と「探求」の時間に思う存分浸ってください。総合学域群での学びが皆さん一人ひとりの知的探究心が開花するきっかけになることを願っています。豊かな自然に恵まれた広大なキャンパスで、皆様をお待ちしております。



総合選抜・総合学域群について

これまでの筑波大学の入試は受験時に学群・学類を決める方式しかありませんでした。令和3年度入試から、一般選抜の前期日程に総合選抜という入試の方式が加わりました。この方式では「文系」「理系I」「理系II」「理系III」という学群・学類よりも幅広い区分で選抜します。入学後の1年間は英語をはじめとする外国語や情報、体育などの基礎科目のほかに、様々な分野の専門導入的な科目を学び、1年次の終わりに本人の志望と入学後の成績などに基づいて2年次以降に所属する学類・専門学群が決まります。この1年間の学びの中で、実際に、文系、理系の様々な授業を受けながら自分がどのような学問に興味を持っているかを考え、2年次に進みたい学類・専門学群を決めることになります。



総合選抜の選抜方針

共通の選抜方針

外国語及び受験生が得意とする領域における思考力、判断力、表現力を重視しつつ、高等学校で学ぶ基礎・基本的な学力を全般的に評価します

マニッシュ・ポリシー

求める
人材

大学において学問的な俯瞰をしながら専門分野を定め、自らのキャリアを主体的に切り拓くために必要な、十分な基礎学力と学習意欲を有する人材

入学までに 学んでおい ほしいこと

高等学校までの基礎学力をまんべんなく身につけておくこと。また幅広く興味関心を持ち、学習に主体的に取り組む態度と自らのキャリアを選択できる力を養うことが望ましい。

総合選抜入学者の2年次受入定員と優先受入人数

(2024年4月入学者)

○は受け入れがあることを、◎は優先する選抜区分と優先受入人数を示します。

選抜区分 募集人員		文系 128名	理系Ⅰ 154名	理系Ⅱ 41名	理系Ⅲ 90名	
学群	学類	2年次受入定員*	2年次優先受入人数			
人文・文化学群	人文学類	30名	◎ (25名)	○	○	○
	比較文化学類	20名	◎ (17名)	○	○	○
	日本語・日本文化学類	20名	◎ (18名)	○	○	○
国際社会・学群	社会学類	20名	◎ (16名)	○	○	○
	国際総合学類	20名	○	○	○	○
人間学群	教育学類	3名	○	○	○	○
	心理学類	5名	○	○	○	○
	障害科学類	3名	○	○	○	○
生命環境学群	生物学類	20名	○	○	◎ (15名)	○
	生物資源学類	20名	○	○	◎ (5名)	○
	地球学類	13名	○	◎ (6名)	◎ (4名)	○
理工学群	数学類	10名	○	◎ (8名)	○	◎ (1名)
	物理学類	15名	○	◎ (10名)	○	○
	化学類	13名	○	◎ (10名)	○	○
	応用理工学類	30名	○	◎ (27名)	○	○
	工学システム学類	33名	○	◎ (30名)	○	○
	社会工学類	30名	○	◎ (15名)	○	○
情報学群	情報科学類	20名	○	○	○	◎ (16名)
	情報メディア創成学類	18名	○	○	○	◎ (15名)
	知識情報・図書館学類	45名	◎ (10名)	○	○	◎ (30名)
医学群	医学類	5名	○	○	○	○
	看護学類	5名	◎ (2名)	○	○	○
	医療科学類	10名	○	○	◎ (4名)	○
芸術専門学群		5名	○	○	○	○
体育専門学群		受け入れはございません。				
合計		413名	※2年次受入定員は募集人員をベースに示したものです。実際の受入人数は、入学者 おさげによって異なります。			

総合学域群の学生は、総合学域群での学びを経て2年次に学類・専門学群に移行し、所属が変わります。学類によっては特定の選抜区分で入学した学生を優先して受け入れる場合があります。

上の表を見てください。例えば人文学類は、総合選抜入学者から30名を受け入れます。そのうちの25名は、選抜区分「文系」で入学した学生を優先して受け入れ、残りの5名は選抜区分を問わず受け入れます。地球学類や数学類のように、複数の選抜区分に優先して受け入れる枠を設けている学類もあります。

一方で、国際総合学類のように、選抜区分による優先受け入れはせず、選抜区分を問わない学類・専門学群もあります。上の表を参考にしながら、受験する選抜区分を考えてください。

なお、詳しい入試情報については、大学のホームページ等に掲載される最新の情報を確認するようにしてください。

総合学域群での学び

1年次の履修科目

大学における4年間(医学類では6年間)の学修のうち、1年次では主に全学生必修の科目と各学問分野の基礎を学び、2年次以降に専門性を高めていきます。1年次である総合学域群の学生は、全学生必修の「共通科目」と、全学向け入門科目である「専門導入科目」を主に履修します。複数の移行先を考えながら学修を進めていく総合学域群の学生は、様々な学類・専門学群の科目を履修するため、各学類・専門学群の1年次生よりも幅広い学問分野の基礎を学ぶことになるでしょう。ぜひみなさんの興味・関心に応じて様々な科目を履修してみてください。

共通科目

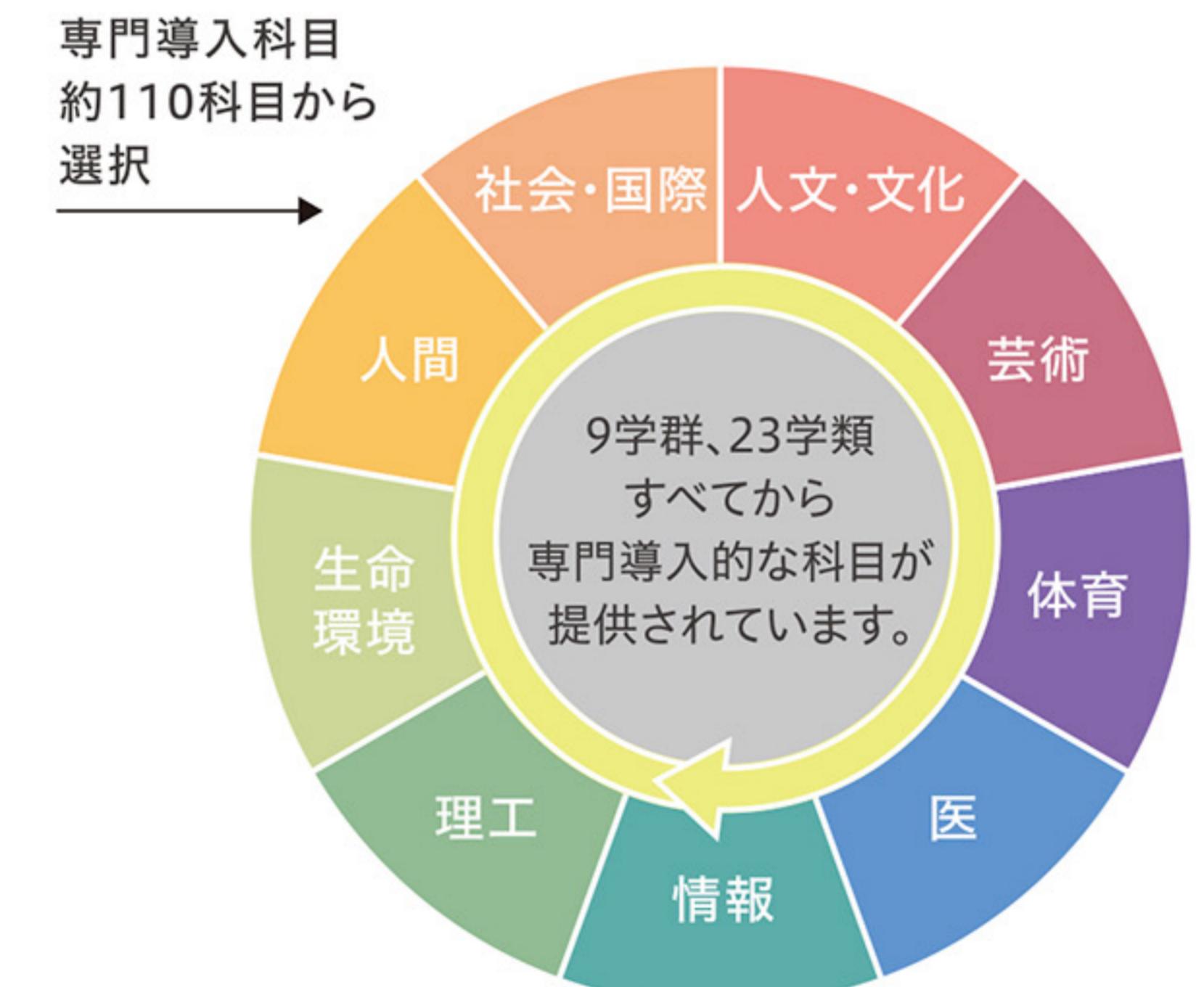
「共通科目」は、総合科目、体育、外国語、情報など、大学での学修で必要とされる基本的な能力を身につけることを目的とした科目です。

総合科目	初年次においては大学の学修環境に適応し、自律的にキャリア形成を始めるなどを支援する科目です。更に専門分野へ進むための知識基盤を整えます。
体育	スポーツ科学を基にした多様なスポーツ実践を通して、「健やかな身体、豊かな心、たくましい精神」を養います。
外国語	英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語があります。学術研究の場で外国語が駆使できるようになります。
情報	「情報リテラシー」で情報とコンピュータに関する基本概念を学び、「データサイエンス」でデータ収集・管理・分析に関する基本概念を身につけます。
国語	国際化した知識基盤社会を生き抜くために、日本語について正しい知識を習得し、自己の意思を的確に表現し伝達する能力を養います。
芸術	美的感性を磨き、表現する喜びを体験します。総合大学の学生にふさわしい豊かでバランス感覚のある人間性を育みます。

専門導入科目

筑波大学では、学生が様々な専門分野を体系的に学べるよう、専門分野の入り口として専門導入科目を開設しています。専門導入科目は高校卒業程度の知識を前提とした内容で、すべての学類・専門学群から様々な科目が提供されています。

専門導入科目などから興味のある科目を選択して学びながら、移行したい学類・専門学群について考えてください。志望する学類・専門学群によって移行・卒業に必要な科目は異なります。科目の履修や移行先の選択にあたっては、Web・冊子等の情報が参考になるほか、アカデミックサポートセンターのスタッフなどに相談することができます。



Aさん(第1類:選抜区分 文系)の時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1限	スポーツの技術を人文社会学から考える	共生のための人類学	English Reading Skills I		基礎体育ソフトボール(春)
2限	生物資源学にみる食品科学・技術の最前線	地球環境学I	基礎中国語BI		ファーストイヤーセミナー
3限	基礎中国語AI	情報リテラシー		日本・アジア領域比較文化研究	
4限	English Presentation Skills I			地球進化学I	
5限	国語I	思想文化領域比較文化研究		情報数学A	国際学IV
6限					

※令和4年度の時間割の一部を抜粋したものです。

移行のしくみ

学類・専門学群への移行について

総合学域群の学生は、1年間の学びの後、所属する学類・専門学群が決まります。これを「移行」と呼びます。どの学類・専門学群に移行するかは、本人の志望と、入学後の成績や適性に基づいて決定します。どの選抜区分(文系、理系I、理系II、理系III)で入学しても、体育専門学群を除くどの学類・専門学群にも移行する道があります。

学類・専門学群の決定

1年次の3月に実施する「本判定」により、2年次に移行する学類・専門学群が決まります。移行先は、学生の「志望順位」と学類・専門学群の「受入順位」の組み合わせによって決定されます。

学生の「志望順位」

学生は、自分が進みたい学類・専門学群に順位を付けます。この順位を「志望順位」と呼びます。志望できる学類・専門学群の数には制限はありません。ただし、志望先によって指定科目の修得が必要となる場合があります。

Aさんの志望順位
1位 X学類
2位 Y学類
…

Bさんの志望順位
1位 Y学類
2位 X学類
…

学類・専門学群の「受入順位」

各学類・専門学群は学生を受け入れる順位を決定します。この順位を「受入順位」と呼びます。

「受入順位」は、履修した科目の成績を総合した「成績点(注)」と、英語外部試験や適性試験といった「成績点以外の要素」も加味して、各学類・専門学群の基準で決定されます。

(注)学類・専門学群によっては、特定の科目を重視して成績点が計算されます。たとえば、多くの理系の学類は理系の科目に重みをおいて成績点を計算します。

移行先の決定 (本判定)

Aさん▶X学類

Bさん▶Y学類



模擬判定

年に数回、実施時点の成績情報を用いて「模擬判定」が行われます。模擬判定の結果は、履修する科目の選択および志望先の検討に活かすことができます。模擬判定の結果が実際の移行先決定に影響を与えることはありません。

総合学域群での1年間

春学期

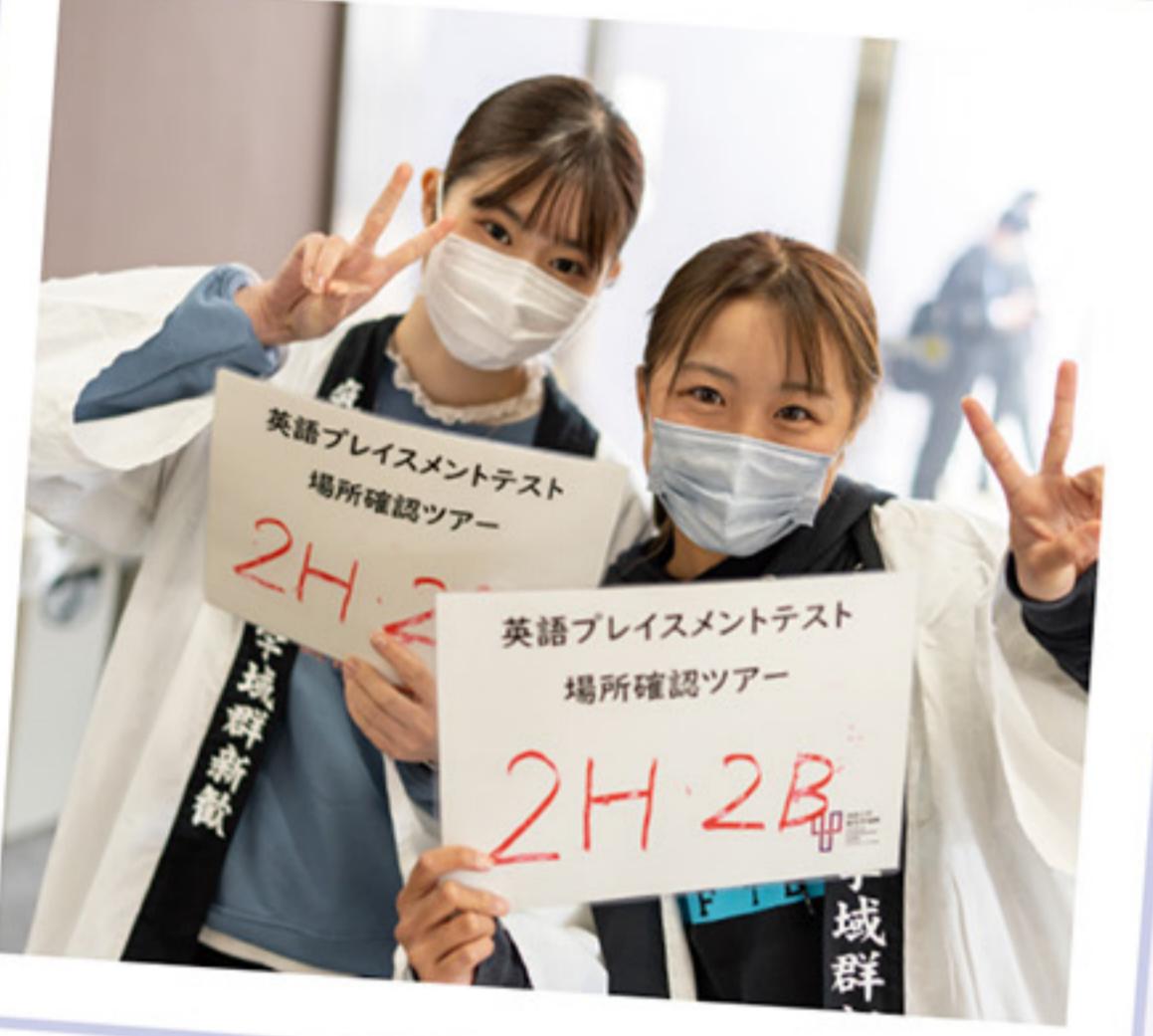
4月

入学式
春学期授業開始

- オリエンテーション
- 履修計画(時間割作成)
総合学域群での学びについて→5p
- 春季ガイダンス



新入生歓迎委員会



what?
新入生歓迎委員会
新入生を様々な面からサポートするために、先輩方がイベントの企画、パンフレットの準備、学修ツールの使い方サポートなどの活動をしています!

4月

オリエンテーション

新入生のみなさんが筑波大学および総合学域群での学修・学生生活を始めるうえで、必要不可欠な情報が説明されます。

4月

春季ガイダンス・夏季ガイダンス

7~9月

総合学域群から移行できる学類・専門学群についての理解を深める機会です。先生方の研究活動の紹介や研究室訪問、先輩学生との交流など、様々な企画が実施されます。

夏季ガイダンスの様子



研究室訪問



学内ツアー

夏季休業

5月

スポーツ・デー(春)

- 履修計画の修正

8月

春学期授業終了

- 履修計画の見直し
- 夏季ガイダンス

10月

秋学期授業開始

- 志望先の最終決定
- 本判定直前ガイダンス

11月

学園祭
スポーツ・デー(秋)

2月

- 志望先の最終決定
- 本判定直前ガイダンス

3月

- 移行先の決定
- 移行のしくみについて→6p
- 移行式

模擬判定(複数回実施)

学際研究プロジェクト

学生の自主的な研究をサポートするプロジェクトを公募事業として実施しました。



2月

本判定直前ガイダンス

本判定に備えて、移行のしくみや注意事項を確認する重要な説明会です。2年次に向けての大変な連絡事項もあります。

3月

移行式

総合学域群の学生の移行を祝う行事です。移行先ごとに学生同士が集まったり、1年間を共に過ごしたクラスの仲間との交流を深めたりする機会にもなります。

移行式の様子





Check!

ウェブサイトにて
随時更新中！

総合学域群 先輩からのメッセージ

第1類(選抜区分:文系)

2022年度入学



私が総合学域群を志望した理由は幅広い進学の選択肢が用意されており、文系でも理転を目指すことが可能なためです。もともと地理学を大学で学びたいと考えていましたが、筑波大では理系でも文系でも地理を学べる学類があることを知り、総合学域群ならば、文理どちら寄りの地理学を学びたいと思って、どちらに進む選択肢もあるという点に惹かれました。もしも高校の文理選択で選択していない分野にも少しでも興味が残っているのであれば、総合学域群を選ぶというのは一つの選択肢なのではないでしょうか。

第2類(選抜区分:理系Ⅰ)

2022年度入学



「高校時代に持つべき知識だけで、どのような進路に進み、どのような学問を修めるか決めてしまうのはもったいない」、「大学に入って、実際の学問の現場で学修を取り組んだ上で進みたい進路を決めたい」、そのように思い志望しました。

今は数学や化学などといった理学系統の分野から哲学や社会学といった文系の分野まで、幅広い視野をもった履修計画を組むことができてほっとしています。

新しいことにも臆せず挑戦し、自らの視野をより広げていきたいです。

第3類(選抜区分:理系Ⅱ)

2022年度入学



大学で学べる事やその環境は中学高校のものとは大きく異なるし、実際に大学がどのようなものかわからないという人も多いと思います。そんな中で自分が専門的に学ぶことを決め切らずに大学に入り、大学生を実際に経験できることが総合学域群の大きなメリットであり、そこに惹かれて入学を希望しました。総合学域群で共に学んでいる仲間たちは十人十色で、工学系に行きたい人もいれば社会系に行きたい人もいるし、まだどこに行こうか悩んでいる人もいます。だからこそ自分自身の価値観は広がるし周りから多くの刺激を受けられる日々です。自分は文系だから文系にしか行けないとその逆もしかり、全くそんなことはないと思われます。幅広い見識を得られる筑波大学だからこそであると思います。

受験生の中にはもうすでに将来の夢を決めている人もまだ迷っている人もいると思います。そこで本当に学びたいことが何なのか悩んでいる人も葛藤している人も多いと思います。僕自身もそうでした。どんな人であっても総合学域群では将来の糧になりうる一風変わった充実した大学生活を送ることができると思います。筑波大学で待っています。皆さん頑張ってください。

第3類(選抜区分:理系Ⅲ)

2022年度入学



総合学域群に行きたいと思った理由は、大学に入った後に自分の興味に合わせて学群、学類を選択できるというところに魅力を感じたからです。大学で先生の話を聞いたり本を読んだりする中で、入学前にまったく興味のなかった学間に興味を持ったりすると思います。実際に私はガイダンスで各学類の先生の話を聞き自分の興味の範囲が広がったと思います。総合学域群で幅広く学んだ知識は移行先でも大きな武器になることでしょう。自分の興味を広げて自分のしたいことの選択肢を増やしたい方には総合学域群はおすすめです。ぜひ総合学域群にきてください！

移行した先輩からのメッセージ

第1類(文系) ▶ 移行先:比較文化学類

結城 寧々

2021年度
入学

私は、入学以前からジェンダーやLGBTQ+について関心がありました。しかし、もちろん「ジェンダー学類」なんてありません。総合での1年間は、どの学問からジェンダーを研究するか、について考える期間でした。学んだ結果気づいたことは、学問的な研究には多様な視点がある、ということです。文学、社会学、文化人類学…それぞれ、同じテーマを扱ったとしても、研究における5W1Hは大きく異なります。「領域横断的な学び」が推奨される昨今において、専門領域にとらわれずに各学問の特色を知ることができるのは、総合学域群ならではです。さらに私は、移行後も、他学類の講義を履修し、ゼミにも参加するなど、「領域横断的な学び」を実践しています。総合学域群の在籍期間は1年ですが、総合学域群的な学びは終わりません。総合での学びが、比文生になった今の自分の強みとして生かされると、日々感じています。



第2類(理系Ⅰ) ▶ 移行先:芸術専門学群

太田 碧

2021年度
入学

総合学域群で過ごした1年は自分の選択肢を広げる時間でした。私が移行した芸術専門学群は絵を描くところだと思っていませんか?私も高校生の頃はそう思っていましたし、進学先の選択肢としてとらえることもありませんでした。しかし、入学後に学んでいくうちに「デザイン」の幅は想像よりも広く、自分のやりたいことを叶えられる学類だと気づくことができました。

移行直後は戸惑うこともありましたが、学んだことをすぐにアウトプットできる演習課題や、それぞれのやりたいことに気軽に挑戦できる雰囲気が私に合っていてとても楽しく学んでいます。総合学域群で身につけた幅広い視点もデザインをするときによく役に立つなど感じます。

第3類(理系Ⅱ) ▶ 移行先:生物学類

山野 虎太郎

2021年度
入学

やりたいことに対して様々なアプローチの仕方を知ることができ、分野の融合などを実感することができました。またとりあえずこの分野ならこの学類だ!と安直に考えていたが、総合学域群でのイベントや各学類で開講される授業を通して、興味・分野に対してどのように考え、学んでいくかを再確認することもできました。

移行後も専門的な知識や経験を積むことができとても満足しています。1年生からその学類にいる学生よりも出遅れているという指摘は否定しきれませんが、そこでは得られない経験があるのも事実であり必ずしもマイナスではないと思います。



第3類(理系Ⅲ) ▶ 移行先:情報科学類

手川 朋香

2021年度
入学

総合学域群での1年間は、自分が何に興味がある将来なりたいのかなど、移行後の進路に関して多くの選択肢を持ちながら、自分と向き合う1年だったと思います。

情報科学類に移行してからの1年間はとても充実したものでした。プログラミングの授業が多く、移行当初は授業についていけるのか不安でしたが、情報科学類にはロボット世界大会での入賞経験や、企業エンジニアとしての経験など、情報技術に精通した友達に、時には相談にのってもらなながら、効率よく勉強することができ、情報科学を学ぶには最適な環境だと思いました。

今、改めて振り返ってみると、総合学域群での1年間は悩みや苦労も多くありました。自分にとって非常に有意義な1年だったと思います。

サポート体制

Support 1 類・クラス

入学して所属する類(第1類、第2類、第3類)、そしてその中のクラスが、みなさんの大学生活初年度の基本単位です。1クラス約20名の学生に対して、1名のクラス担任が、ファーストイヤーセミナーなどを通じて、修学や学生生活全般について助言や相談に応じます。総合学域群では、クラス担任の先生も様々な学類・専門学群から選出されています。



Support 2 アカデミックサポートセンター

総合学域群の学生は入学してからの学びのなかで、将来の進路や自分の関心、適性にあった学類・専門学群を選択します。入学直後は、自分の興味・関心が定まらず学類等の選択や科目の選択に迷うかもしれません。アカデミックサポートセンターでは、志望する移行先の絞り込みの助言や適切な履修計画・進路選択等をしっかりとサポートします。



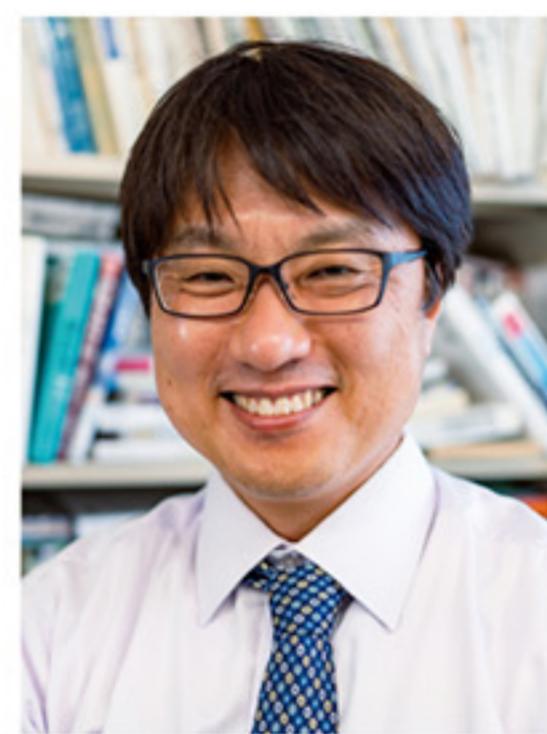
Support 3 全学学生支援組織

保健管理センター／学生相談室・総合相談窓口／ヒューマンエンパワーメント推進局

筑波大学のすべての学生に向けて、健康面などをサポートする体制が用意されています。積極的に活用してください。



みなさん、進学する大学の学部を選ぶにどうしていますか?なんとなく周りの方の助言などで決めていないでしょうか。でも、大学での学びの期間をみんなが存分に生かすには、高校まで以上に、自分自身の問題意識や関心を磨くことが大事です。特定の学術分野に飛び込んでしまう前に、実際にどんな分野が大学にあるのかを知り、また学問領域を横断する視野を養えることは、みんなにとって大きなメリットになります。きっとそこから、自分しさを生かせる課題が見えてくることでしょう。専攻したい分野を時間かけて見つけるためにも、また一生役立つ幅広い知的好奇心をはぐくむためにも、大学生活を総合学域群でスタートしてみませんか?



秋山英三
第2類長
(システム情報系教授)
筑波大学は国内有数の研究大学の一つです。国内外で活躍する多様な分野の教員が、豊かで多様な学問をみんなに提供しています。総合学域群に入学したみなさんには、教員・スタッフ・友との対話、そして、自分自身の好奇心と興味に従って、幅広い学問分野の中から自らの学修の道をデザインし、知的成長と自己発見の旅に出ることになります。その知的成長と自己発見は、みんなの学類・専門学群の選択と、その後の深い専門性・学際性の獲得へと繋がることでしょう。豊かな自然に囲まれた筑波大学のキャンパスでみなさんとお会いできることを楽しみにしています。みんなが、総合学域群に入学して、知的で実り多い未来を手に入れることを願っています。



松井圭介
第3類長
(生命環境系教授)
総合学域群の最大の魅力は、自分の学びたい分野(学類・専門学群)を入学後に決められること。例えば生物学類と生物資源学類、応用理工学類と工学システム学類、皆さんには違いがわかりますか?入学後に先輩から話を聞いたり、実際に講義を受けたうえで希望学類を選択する。文理の壁さえも(意欲と能力次第)越えられる。それが総合学域群です。希望分野の人気が高ければ、入学後の競争もあるでしょう。でも勉学は大学生の本分、大学進学は目的ではなく、将来を切り拓くための手段なのです。高校時代まで触れる事のなかった学問を知り、新たに興味をもつ分野が生まれるのが大学生活の醍醐味。そんな皆さんのつくばライフを本気で応援いたします。



アカデミックサポートセンターは、総合学域群の学生の支援のために設置されている組織です。ここには、各学類・専門学群の教育内容を熟知しているアドバイザーの先生方、全学の教育システムに通じているベテランのコーディネーターの先生方、履修や移行について個々の相談にも応じてくれる専門スタッフなどが所属しています。専門スタッフは本学の卒業生や、みんなにとって比較的年齢が近い人もいます。事務職員や大学院生のラーニングサポーターとも力を合わせて、総合学域群生の学びと生活を一杯「サポート」します。筑波山のふもと、研究学園都市にある、筑波大学でお待ちしています。



野口恵美子
総合学域群長
特別補佐
(医学医療系教授)
医療系の学部は医師、看護師、検査技師といった資格に直接結びつくものが多いためイメージしやすいかもしれません、実際には情報系、心理系、生物系、社会科学系等様々な学問分野と密接に結びついています。新たな学問の領域は既存のものではなく、様々な学問分野の融合によって生まれています。このような学問の多様性は21世紀に生じている、今までになかった新たな課題を克服していくために必要となります。総合学域群では、大学の様々な分野の授業を受けていただくことにより、皆さんの将来の選択がよりよいものになるような機会を提供できる場所であると思っています。入学後、お会いできるのを楽しみにしております。

アカデミックサポートセンターのサポートスタッフ

アカデミックコーディネーター/アカデミックアドバイザー

キャリアや進路、あるいはそれぞれの学類・専門学群の教育内容等について、相談に応じます。

coordinator



数理物質系
佐野伸行



総合学域群特命教授
片平克弘



システム情報系
伊藤誠

adviser



人文学類
中西僚太郎



比較文化学類
青柳悦子



日本語・日本文化学類
鈴木伸隆



社会学類
福住多一



国際総合学類
松原康介



教育学類
佐藤博志



心理学類
山田一夫



障害科学類
宮本昌子



生物学類
岩井宏暁



生物資源学類
上條隆志



地球学類
角替敏昭



数学類
永野幸一



物理学類
大須賀健



化学類
小谷弘明



応用理工学類
白木賢太郎



工学システム学類
丸山勉



社会工学類
高野祐一



情報科学類
額田彰



情報メディア創成学類
寺澤洋子



知識情報・図書館学類
加藤誠



医学類
木村友和



看護学類
山海知子



医療科学類
大林典彦



芸術専門学群
加藤研

専門スタッフ

移行のしくみや履修計画の立て方、志望先に合わせた科目選択の仕方等について、相談に応じます。

なんでも相談してね!



ラーニングセンター

筑波大学の大学院生が、理系の基礎科目を中心に、授業の内容や学修法等について、相談に応じます。高校で理系科目を学修してこなかった、あるいは学修に不安のある学生でも、理系の移行先に挑戦できる体制を整えています。



私たちが
サポートします!

自分が行きたい学類・専門学群を見つけよう!

総合学域群の学生は、総合学域群での1年間を通して進みたい学類・専門学群を選択していきます。

履修した科目をもとに考えよう

実際に授業を受けてみることで、「面白そうと思ったけど、自分がやりたいことはちょっと違う」「自分は○○に興味があると思っていたけど、△△もとても面白そう!」など、意識が変わることもあると思います。実際に履修した科目の内容や受講した感想をもとに、行きたい学類・専門学群を考えていきます。

全学必修科目「学問への誘い」

入学後すぐに履修するこの科目では、筑波大学のすべての学群について話が聞けるので、幅広い学問分野を俯瞰する助けとなります。



そもそも何に興味があるのかわからない場合は…

自分の興味・関心とは違うな、関係ないなと思っている学類・専門学群の話もぜひ聞いてみてください。意外にも文理を越えて深く関係していて、新たに興味をもつかもしれません。



▲アカデミックサポートセンターのスタッフや教員との個別面談の様子

その他学類・専門学群選びの参考となるもの

- ・『履修・移行ガイドブック』(入学後に配付されます)
- ・『移行後に備えて』(入学後に配付されます)
- ・各学類・専門学群のホームページやパンフレットの情報



Q & A

Q1

「総合選抜」と「学類・専門学群選抜」のどちらを受験するか迷っています。

A1

総合選抜を経て総合学域群に所属する学生は、複数の学類・専門学群の授業を履修しながら移行先を考えています。移行先決定の際に志望できる学類・専門学群の数には限りがありませんので、複数の学類・専門学群を移行先の選択肢として考えたい場合は、ぜひ「総合選抜」を受験し総合学域群で1年間広く学修してみてください。一方で、特定の学類・専門学群のみを希望する場合は、「学類・専門学群選抜」を受験することをお勧めします。

Q2

総合学域群の学生と各学類・専門学群の学生では、履修する科目は異なりますか?

A2

基本的には、総合学域群の学生と各学類・専門学群の学生で履修できる科目に違いはありません(一部、自学類の学生にのみ開講される科目もあります)。科目によっては人数の関係でクラス分けを行うこともありますが、各学類・専門学群の学生と一緒に授業を受けます。

Q3

どのように履修計画(時間割)を立てればよいですか?また、自分の興味のあることを学べるような志望先が見つかっても、授業の内容が難しくてついていくのが不安です。

A3

アカデミックサポートセンターでは常時個別履修相談に応じています。自分の志望にあわせて履修計画を提案してもらうこともできるので、個別相談を積極的に活用してみましょう。また、総合学域群独自の学修支援体制が整えられており、授業の内容についてわからないことがある場合は、勉強の仕方や授業内容についての具体的な助言が可能な大学院生のラーニングセンターを利用することができます。

Q4

どのように志望する学類・専門学群を決めていかなければよいでしょうか?進みたい学類・専門学群を1年で決められるか不安です。

A4

総合学域群の学生は1年をかけて様々な学類・専門学群の授業を受けながら、志望先を考えています。自身の興味・関心に合った学類・専門学群を探す機会として、春学期および夏季休業中にガイダンスを実施するほか、各学類・専門学群から選出されたアカデミックアドバイザーやクラス担任、アカデミックサポートセンターのスタッフがみなさんの相談にのり一緒に考えていきます。

Q5

2年次に移行する学類・専門学群はいつ決まりますか?

A5

3月に実施する「本判定」で決まります。学生はこの時までに、志望する学類・専門学群とその順位を決めます。なお、志望できる学類・専門学群の数に限りはありません。

Q6

移行後に学類・専門学群で入学したグループについているかどうか、仲間に入れるかどうか不安です。

A6

移行後の教育は、移行先の学類・専門学群が責任を持って対応します。編入学生や留学生等、途中年次から筑波大学に通い始める人も大勢います。総合学域群から移行した学生も、移行先できっと新しい友達ができるかもしれませんし、1年を共に過ごした総合学域群の仲間との交流は移行した後も続いているでしょう。困った場合は、学生生活について何でも相談できる窓口があります。

Q7

教育職員免許状(教員免許)を取得することはできますか?

A7

できます。ただし、免許状の取得に必要な科目の一部は、学類・専門学群ごとに異なりますので、免許の取得に共通して必要な科目を総合学域群にいる間に履修してください。

Q8

1年次に留学できますか?

A8

できます。ただし、留学により本学で履修できない科目があれば、希望する学類・専門学群への移行の可否に影響する可能性があります。また、総合学域群に在学できる期間は2年間と定められているため、注意が必要です。留学を希望する場合は、いつ、どれくらいの期間で留学するかを慎重に検討する必要があります。各学類・専門学群に移行した後の期間も合わせて考慮したうえで、留学を計画するとよいでしょう。

